

# 株式会社電算 2018年3月期第2四半期 決算説明会資料

2017年11月24日

(東証一部 証券コード3640)

[www.ndensan.co.jp](http://www.ndensan.co.jp)

# I 2018年3月期第2四半期決算

II 2018年3月期通期 業績予想

III 当社の目指す姿と今後の取り組み

IV 株主還元

**売上高** 54億46百万円 (前年同期比 0.6%減)  
**営業利益** 1億31百万円 (前年同期は6億5百万円の営業損失)

### ● 売上高

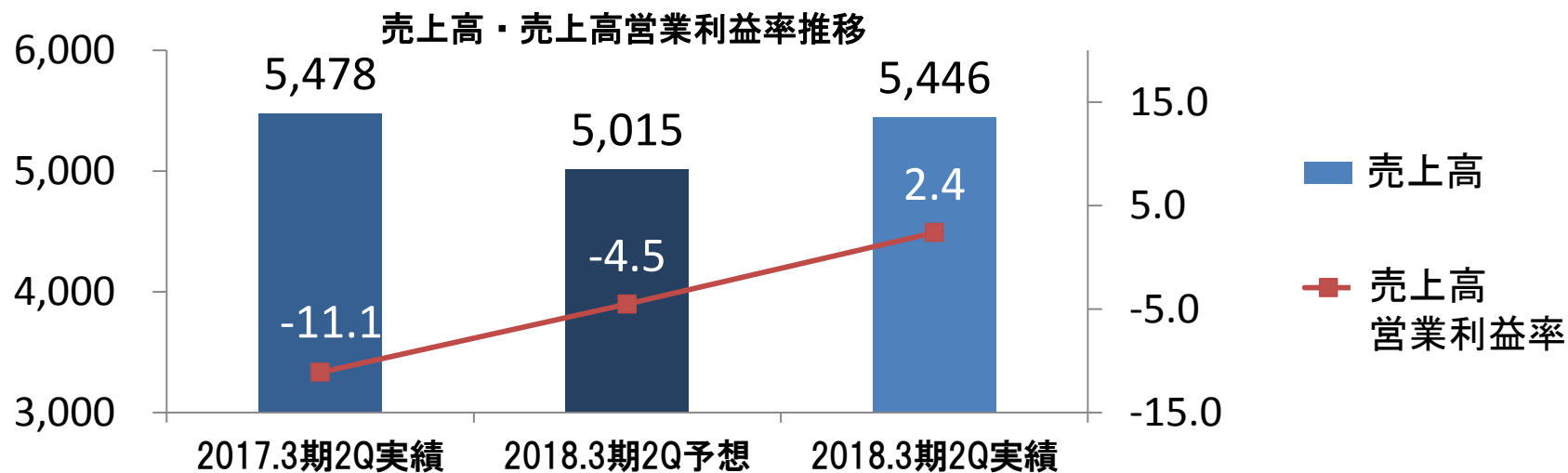
公共分野における、市区町村向けシステムのリプレイスや法制度改正対応、情報セキュリティ強靱化に関する作業のほか、産業分野での、民間企業および医療福祉機関向けのシステムの導入や保守などにより売上を確保。臨時福祉給付金や、番号制度等の大きなインパクトのあった前年同期と比較し、売上高は0.6%減少。

### ● 営業利益

継続している次期総合行政情報システムの研究開発が製品化に向けた工程が主体となり、研究開発費として計上される経費が前年同期と比べ減少したことで、大きく増益となった。

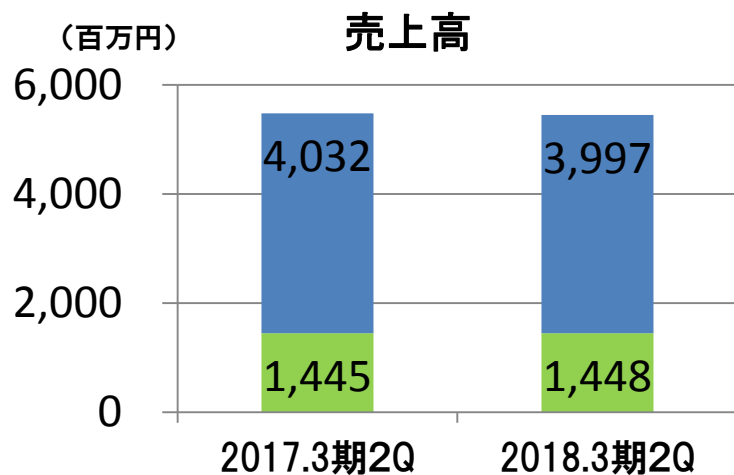
# 2018年3月期第2四半期 損益計算書

	2018年3月期2Q 実績		2017年3月期2Q 実績		対前年同期増減		2018年3月期 2Q 予想		対予想増減	
	金額 (百万円)	利益 (損失) 率(%)	金額 (百万円)	利益 (損失) 率(%)	金額 (百万円)	率 (%)	金額 (百万円)	利益 (損失) 率(%)	金額 (百万円)	率 (%)
売上高	5,446	—	5,478	—	△32	△0.6	5,015	—	430	8.6
営業利益 (△は損失)	131	2.4	△605	△11.1	737	—	△227	△4.5	358	—
経常利益 (△は損失)	134	2.5	△586	△10.7	720	—	△217	△4.3	351	—
四半期純利益 (△は損失)	78	1.4	△439	△8.0	517	—	△152	△3.0	230	—

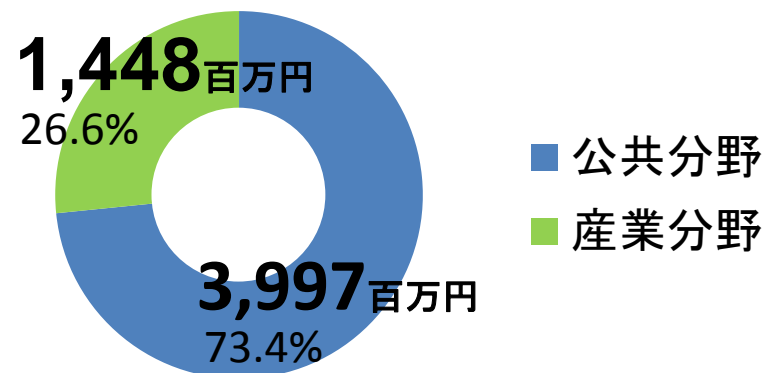


# 2018年3月期第2四半期 セグメント別損益(営業利益)

		2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	増減額	増減率
公共 分野	売上高 (百万円)	4,032	3,997	△35	△0.9%
	営業利益 (損失) (百万円)	△456	196	+652	—
	営業利益 (損失)率 (%)	△11.3	4.9	—	—
産業 分野	売上高 (百万円)	1,445	1,448	+2	+0.2%
	営業利益 (損失) (百万円)	△134	△63	+70	—
	営業利益 (損失)率 (%)	△9.3	△4.4	—	—



2018.3期2Qセグメント別 売上構成比



# 2018年3月期第2四半期 業務の種類別損益(売上総利益)

		2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	増減	
				金額	率
情報処理・ 通信サービス	売上高(百万円)	1,586	1,515	△71	△4.5%
	売上総利益(百万円)	482	480	△2	△0.4%
	売上総利益率(%)	30.4%	31.7%	+1.3pt	
ソフトウェア開発・ システム提供 サービス	売上高(百万円)	2,374	2,174	△200	△8.4%
	売上総利益(百万円)	1,150	873	△277	△24.1%
	売上総利益率(%)	48.5%	40.2%	△8.3pt	
システム機器 販売等	売上高(百万円)	691	842	+151	+21.9%
	売上総利益(百万円)	185	170	△15	△8.1%
	売上総利益率(%)	26.9%	20.2%	△6.7pt	
その他関連 サービス	売上高(百万円)	825	913	+88	+10.7%
	売上総利益(百万円)	232	258	+26	+11.2%
	売上総利益率(%)	28.2%	28.3%	+0.1pt	

I 2018年3月期第2四半期決算

## II 2018年3月期通期 業績予想

III 当社の目指す姿と今後の取り組み

IV 株主還元

<b>売上高</b>	<b>146億円</b> （前期比 1.3%減）
<b>営業利益</b>	<b>8億9千万円</b> （前期比 51.7%増）
<b>当期純利益</b>	<b>6億2千1百万円</b> （前期比 48.0%増）

### 公共分野

- 高品質な次期総合行政情報システムの開発
- 広域生活圏でのシステム共同利用の提案
- 新サービスの研究・企画
- 法制度改正対応

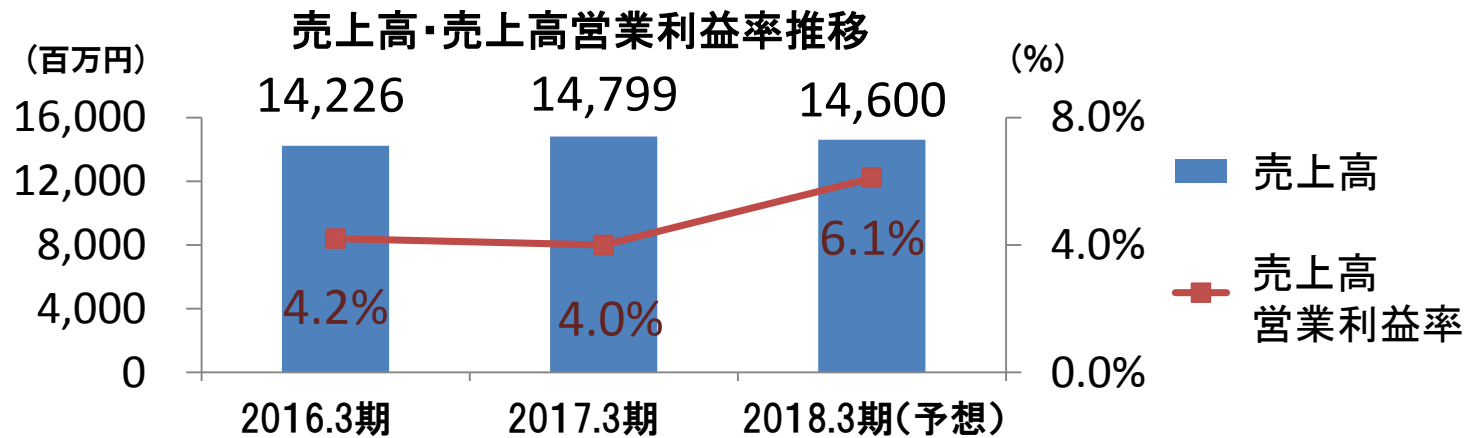
### 産業分野

- 分野ごとに大型保有商談を確実に受注し、売上を伸長
- 競争力強化のための研究開発を実施し、新規顧客を獲得
- ストックビジネスの強化（クラウドサービス拡販）



# 2018年3月期通期 業績予想

	2017年3月期		2018年3月期(予想)		増減	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	率
売上高	14,799	—	14,600	—	△199	△1.3%
売上総利益	5,179	35.0	4,480	30.7	△698	△13.5%
販管費及び 一般管理費	4,592	31.0	3,590	24.6	△1,001	△21.8%
営業利益	586	4.0	890	6.1	+303	51.7%
経常利益	600	4.1	902	6.2	+301	50.3%
当期純利益	419	2.8	621	4.3	+201	48.0%



# 2007年度～2016年度 推移

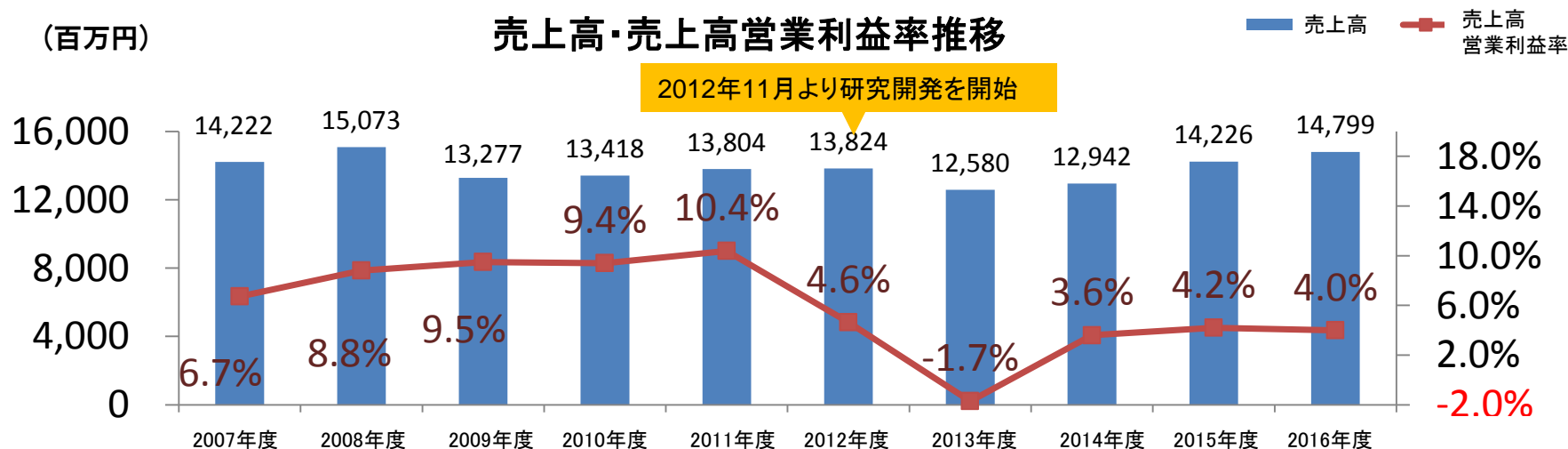
(単位:百万円)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
売上高	14,222	15,073	13,277	13,418	13,804	13,824	12,580	12,942	14,226	14,799
売上総利益	3,514	4,046	4,135	4,424	4,557	4,091	3,624	4,989	5,582	5,179
販管費及び一般管理費	2,557	2,718	2,873	3,162	3,123	3,448	3,840	4,517	4,981	4,592
営業利益	957	1,327	1,261	1,261	1,433	642	-216	471	600	586
経常利益	905	1,295	1,251	1,261	1,493	666	-188	487	616	600
当期純利益	469	767	733	709	838	444	-424	171	969	419

近年の営業利益: 2007(平成19)年度から2011(平成23)年度までの5年間:平均12.5億円  
 2012(平成24)年度から2016(平成28)年度までの5年間:平均 4.2億円

(百万円)

## 売上高・売上高営業利益率推移



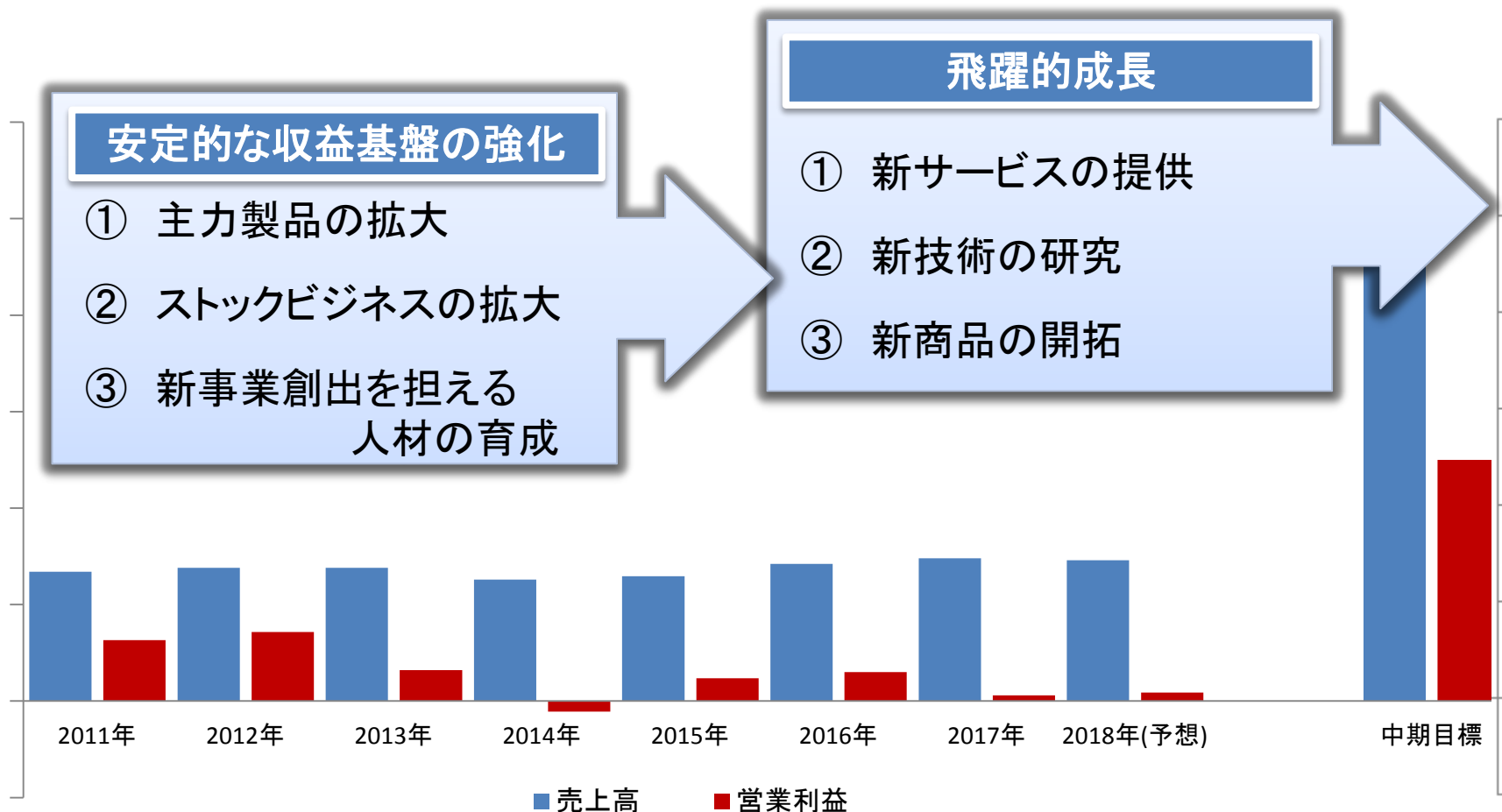
I 2018年3月期第2四半期決算

II 2018年3月期通期 業績予想

## III 当社の目指す姿と今後の取り組み

IV 株主還元

- 新商品開発や新技術対応へ積極的にチャレンジする企業
- 開発技術力、サービス力、顧客対応力、提案力等、総合力を顧客・業界から評価される企業
- 起業家精神を創発し、新たなビジネスに挑戦する企業



## ①主力製品の拡大

公共分野の次期総合行政情報システム、産業分野の各種パッケージシステムのシェア拡大

## ②ストックビジネスの拡大

データセンターサービスの拡充によるストックビジネス売上の拡大

## ③人材の育成

今まで培った事業基盤を活かし、更なる成長に向け、将来の電算を見据えた人材を育成

## ①主力製品の拡大

### 主力製品の計画的な販売によるシェア拡大

#### 公共分野

次期総合行政情報システム

#### 産業分野

パッケージシステムの拡販  
医療関連事業の拡大

- 品質の高い次期総合行政情報システムの開発とファーストユーザの安定稼働⇒全国シェア拡大
- 製品の機能向上による主力パッケージシステムのシェア拡大
- 子会社である(株)ティー・エム・アール・システムズとの連携強化で医療関連売上を拡大

## 次期総合行政情報システムの販売計画

### 販売戦略

- 計画的な販売活動
  - 顧客の更改時期をターゲットとした計画的な提案活動
  - システム展示会の開催及び出展による広告宣伝活動
- パートナとの連携強化による全国拡販
  - 新規パートナー獲得、提案支援

### 受注目標



## リース業務パッケージの販売計画

### 販売戦略

- ターゲットユーザの確保と顧客の投資タイミングをとらえて受注獲得
- 既存顧客に向けたオプション機能(タブレット対応等)の拡販・受注獲得

### 受注促進に向けた商品強化

- パッケージ初期導入費用・運用費用の削減につながる機能改修

### 受注目標

2017年度	2018年度	2019年度
2017年度受注獲得目標 3社	2018年度受注獲得目標 4社	2019年度受注獲得目標 4社



## ②ストックビジネスの拡大

### データセンターサービスの拡充によるストックビジネス売上の拡大

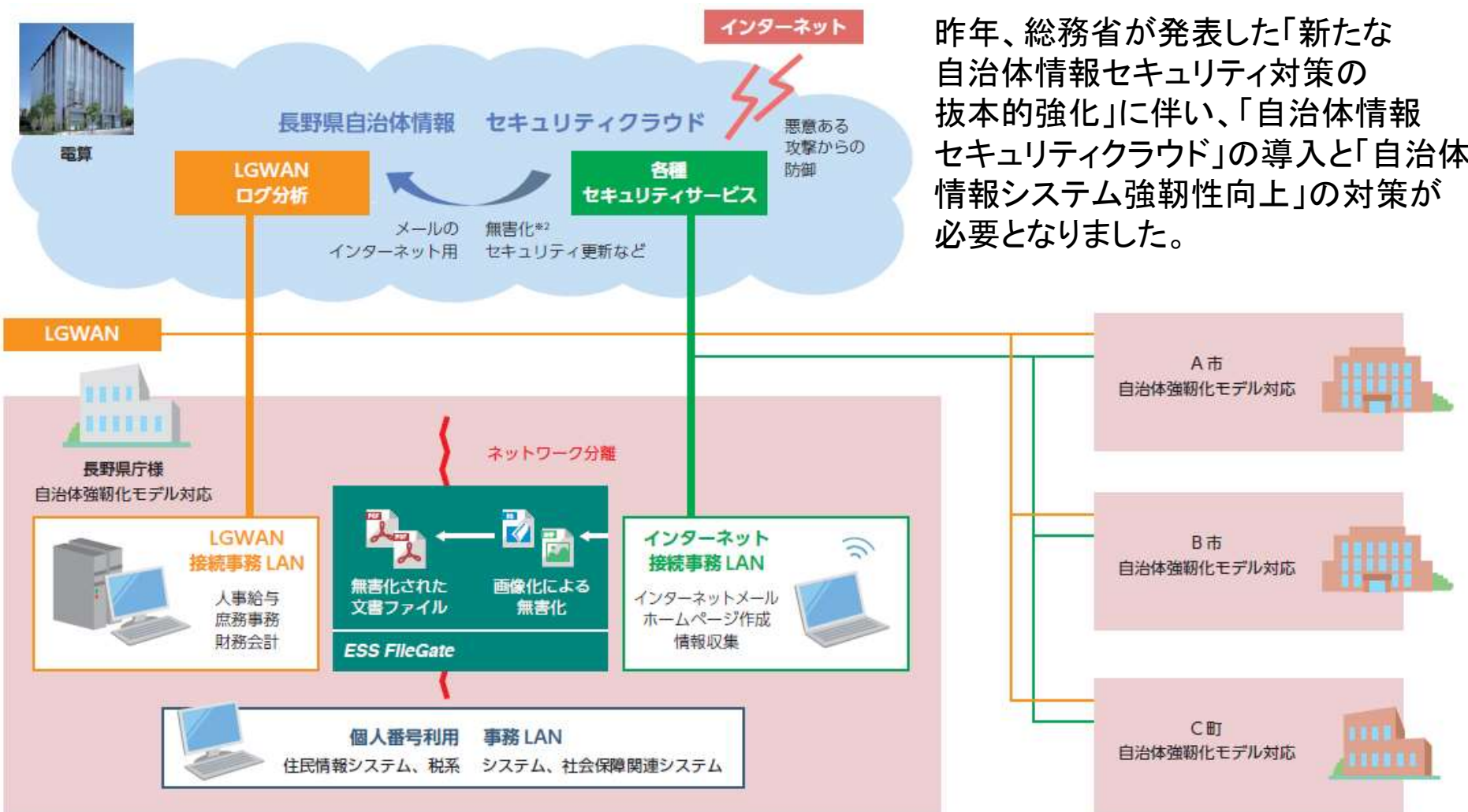
- クラウド型の新たなサービスの創出(企画・開発・提供)
  - 新システム・アプリの開発、既存製品のクラウド化
  - 他社との提携によるサービス提供
- システム導入、リプレイスに合わせたデータセンターサービスの営業展開
  - 既存業務パッケージ導入・リプレイスに合わせた、仮想サーバーサービス等のデータセンターサービス利用促進
  - その他データセンターサービスを含めた追加提案の実施

## ③人材の育成

### 更なる成長に向け、将来の電算を見据えた人材の育成

- 高度情報セキュリティ技術者の増強に向けた人材教育
- 地方公共団体他等への出向による専門知識の習得
- アプリケーション開発技術の調査研究と開発技術者の育成
- 個人学習を含めた語学教育によるグローバル化対応

## 県自治体情報セキュリティクラウド



昨年、総務省が発表した「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化」に伴い、「自治体情報セキュリティクラウド」の導入と「自治体情報システム強靱性向上」の対策が必要となりました。

## ① 新サービスの提供

### 番号制度利用拡大に向けた新サービスの創出

- 2018年以降の個人番号利用拡大に向けたサービス

### 新規事業の創出に向けた取り組み

- 短期・長期の業績向上に資する、新サービスの企画・立案
  - セキュリティ対策に関する新サービス
  - 医療分野システムの新規事業創出
  - AI(人工知能)への取り組み

## ② 新技術の研究

異業種とのコラボレーションも視野に入れた、新技術の調査研究を進め、サービス提供を開始

- ビッグデータ、オープンデータ
- IoT (Internet of Things)
- AI (Artificial Intelligence: 人工知能)
- AR (Augmented Reality: 拡張現実)
- ドローン(無人航空機) 等

## 赤外線センサーを利用し、データを収集、分析、活用する 実証実験を実施中

- バスの乗降調査システム(プロトタイプ)を作成し、実証実験中
  - センサーが発するデータをビッグデータとしてクラウド(当社データセンター)に蓄積
  - バスの運行計画改善などに役立てる
- 在室管理など、医療福祉関連の見守りサービス等で応用



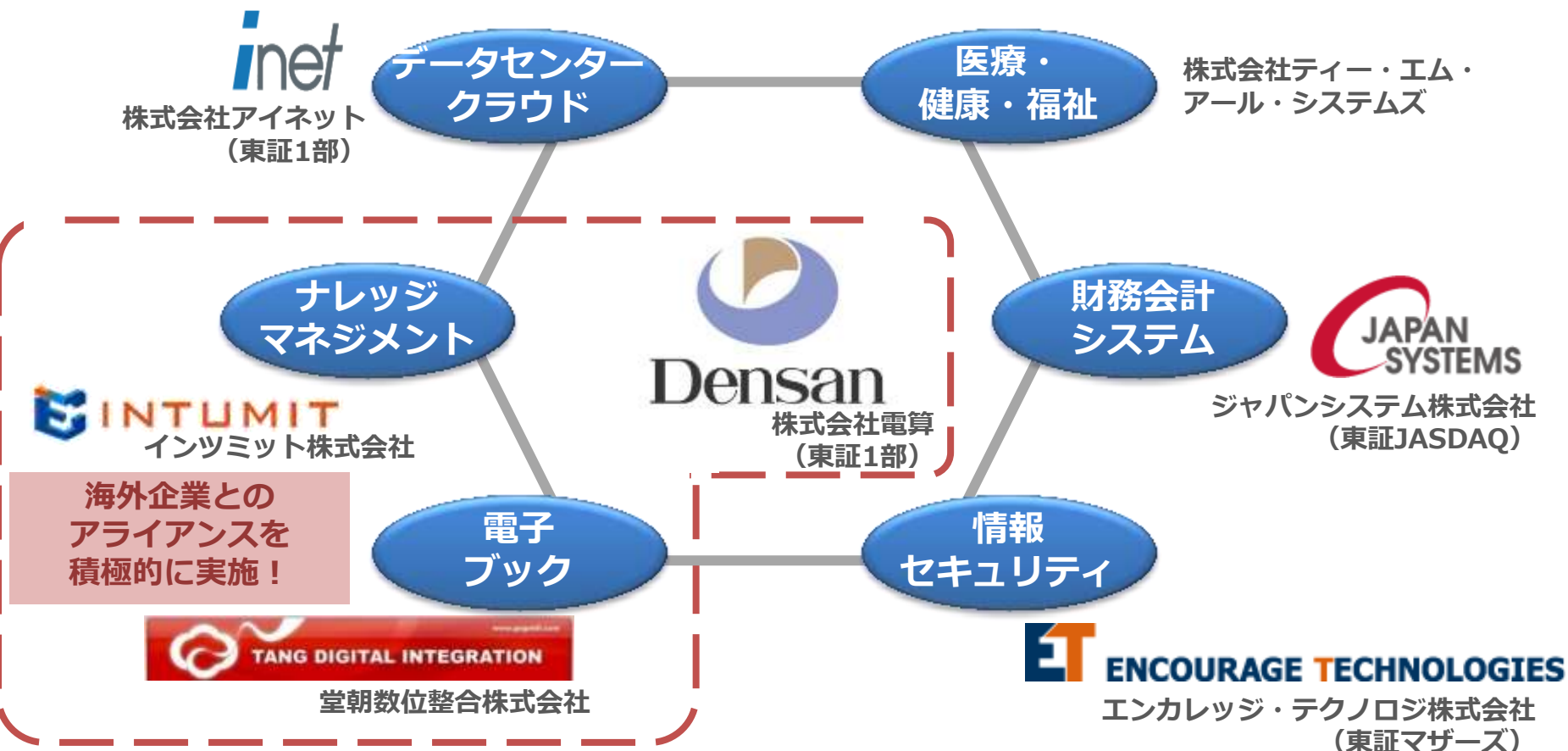
## 認定資格(JUIDA操作技能証明)取得を目標に、ドローン操作技術を外部研修で受講中

- 公共、民間問わず、さまざまな分野での活用が期待される
  - 土木、測量、農業、災害対策、映像 等
- 認定資格取得を目標に12名が研修中
  - プロ講師の指導のもと、フライト操作から航空法、空撮技術、気象学等を学ぶ



### ③ 新商品の開拓

業務提携による、サービス拡充とマーケット拡大  
海外企業との連携強化、商品の仕入れ販売



**inet**  
株式会社アイネット  
(東証1部)

データセンター  
クラウド

医療・  
健康・福祉

株式会社ティー・エム・  
アール・システムズ

ナレッジ  
マネジメント

**INTUMIT**  
インツミット株式会社

**Densan**  
株式会社電算  
(東証1部)

財務会計  
システム

**JAPAN SYSTEMS**  
ジャパンシステム株式会社  
(東証JASDAQ)

海外企業との  
アライアンスを  
積極的に実施!

電子  
ブック

**TANG DIGITAL INTEGRATION**  
堂朝数位整合株式会社

情報  
セキュリティ

**ENCOURAGE TECHNOLOGIES**  
エンカレッジ・テクノロジー株式会社  
(東証マザーズ)

## 株式会社ティー・エム・アール・システムズとの連携

- 2016年7月に子会社化した株式会社ティー・エム・アール・システムズと協業し、都内の健康保険組合向けの総合健診システムを受注。
- 総合健診システムのパッケージ化で商品力を向上
- 今後関東近郊の健診センターや他県の保健センターなどの獲得など、更なるシナジー効果の拡大を目指す
- 拡大が予想される不妊治療マーケットにおける戦略商品、IVF(不妊治療)管理システムの早期シェア獲得を目指す



I 2018年3月期第2四半期決算

II 2018年3月期通期 業績予想

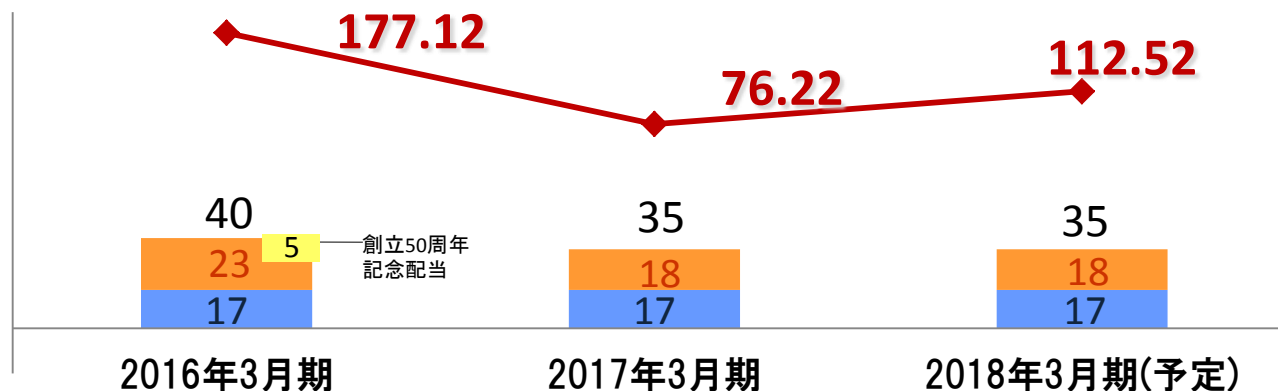
III 現在の取り組みと今後の状況

## IV 株主還元

**【配当方針】 中間期末、期末の年2回実施**  
**【配当性向目標】 20%以上**

1株当たり配当金	2017年3月期実績	2018年3月期
年間配当金	35円	35円(予定)
9月中間期末	17円	17円
3月期末	18円	18円(予定)
(配当性向)	45.9%	31.1%(予想)

(円)    ■ 中間配当金                      ■ 期末配当金                      ◆ 一株当たり当期純利益



## 4,000円分の三菱UFJニコスギフトカードを贈呈

### ◆対象株主様

毎年3月31日現在の当社株主名簿に記録された  
100株以上を保有されている株主様

### ◆贈呈時期

毎年6月下旬 当社定時株主総会終了後、送付する決議ご通知に同封



本日はご清聴いただき  
誠にありがとうございました。

### IRに関するお問い合わせ

IRに関するお問い合わせ・ご質問は下記までお寄せ下さい。

株式会社 電算 経営企画部 IR担当 宛て

TEL: 026-224-6666 (土曜・日曜・祝日・年末年始を除く8:30～17:30の間)

[ir@ndensan.co.jp](mailto:ir@ndensan.co.jp)

本資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、作成時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後経済情勢や市場動向の変化等、様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

本資料は、当社に関する情報提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。

掲載されている情報を投資、その他の目的に利用することが適切か否かに関する決定は、利用者ご自身の判断で行うよう、お願いいたします。

(参考) 2018年3月期第2四半期 貸借対照表(B/S)

資産の部

(単位:百万円)

科目	2017.3.31	2017.9.30	増減額
<b>流動資産</b>	<b>8,111</b>	<b>6,262</b>	<b>△1,849</b>
現金及び預金	1,230	1,849	+618
その他	6,881	4,413	△2,467
<b>固定資産</b>	<b>10,594</b>	<b>11,530</b>	<b>+935</b>
有形固定資産	6,820	6,699	+121
無形固定資産	2,648	3,690	+1,042
投資その他の資産	1,126	1,140	+14
<b>資産合計</b>	<b>18,706</b>	<b>17,792</b>	<b>△914</b>

■ 期末からの増減の主な要因

資産: **△914百万円**

現金及び預金 +618百万円

受取手形及び売掛金 △2,960百万円

商品 +310百万円

ソフトウェア仮勘定 +983百万円

負債: **△927百万円**

買掛金 △988百万円

預り金 +100百万円

純資産: **+13百万円**

四半期純利益 +78百万円

期末配当 △99百万円

負債及び純資産の部

(単位:百万円)

科目	2017.3.31	2017.9.30	増減額
流動負債	7,505	6,537	△967
固定負債	2,980	3,021	+40
<b>負債合計</b>	<b>10,486</b>	<b>9,558</b>	<b>△927</b>
株主資本	8,181	8,193	+12
評価・換算差額等	5	6	+1
新株予約権	34	34	—
<b>純資産合計</b>	<b>8,220</b>	<b>8,233</b>	<b>+13</b>

※増減額は円単位での切り捨てとなっております

(参考) 2018年3月期第2四半期 損益計算書(P/L)

(単位:百万円)

科目	2017.03期 2Q	2018.03期 2Q	増減額
売上高	5,478	5,446	△32
売上原価	3,426	3,663	236
売上総利益	2,051	1,782	△269
販管費及び 一般管理費	2,657	1,650	△1,006
営業利益(△は損失)	△605	131	737
営業外損益	19	2	△17
営業外収益	29	13	△15
営業外費用	9	11	1
経常利益(△は損失)	△586	134	720
特別損益(△は損失)	△11	—	11
税引前四半期純利益	△598	134	732
法人税等合計	△159	55	214
当期純利益(△は損失)	△439	78	517

■前年同期比 増減の主な要因

売上高: **△32百万円**

  公共分野 **△35百万円**

  産業分野 **+2百万円**

営業利益: **+737百万円**

  研究開発費として計上される経費が前年同期と比べ減少したことにより増益

特別損益: **+11百万円**

  前年同期は固定資産除却損を計上

※増減額は円単位での切り捨てとなっております